

9月17日(日) 研究発表第6室(722)

単語数と語彙数の分析

Running Words and Different Words
in ESL Composition

(自由英作文の実態調査結果)

京都外国語大学非常勤講師
廣田輝子

自由英作文 語彙数 単語数 評価 実態調査

英作文指導研究会において、学生の英作文力を知るための実態調査を行った結果、自由英作文では学生の書く力のなさがはっきりと知らされた。日本語を含めて読書の量を増やすこと、とりわけリーディングによる英文のインプットを重要視すること、それと同時に英文のアウトプットの機会を多く与えて行くことなどが課題となった。

何よりもまず多く書かせて行くことが大切なことはいうまでもないが、その上で次の段階では、質の高い英作文を目指さなければならない。今回の実態調査に参加しているさまざまな専攻と英作文力を持つ学生の中で、二回生以上の上位クラスの学生は、すでに質を目指す段階に来ている。英米語学科の学生2クラス70名を対象に、1994年4月と12月に書かせた自由英作文の語彙数を中心として、次のような研究テーマのもとに分析を試みた。

(1) 単語数が英作文の評価の量の基準になるとしたら、語彙数はその質の基準にならないか。(2) 4月と12月の英作文を比較して、単語数において大きな増加率を示した学生から、何か英作文指導に役立てられるものが見つけられないか。

研究材料：JACET関西支部英作文指導研究会の実態調査で書かせた4月と12月の自由英作文。

研究対象：2クラス70名の学生の4月と12月の英作文を比較して、それぞれの単語数をもとに各学生の増減率を計算した。単語数の増加率70%以上の11名をまず選出した。増加した単語数ではなく増加率を適用したのは、増加した単語数の多い上位の学生だけでなく下位の学生も選出するためであった。近似した単語数の英作文を比較するため、すでに選出された11名の学生と同じかもしくは1語差の単語数を書いた学生10名を70名中から選び、加えて合計21名とした。

研究方法：21名の学生の4月と12月の英作文の語彙数を計算した。語彙数とは、一つの英作文において使用されているすべての単語を使用回数に関係なく1と数え、その英作文

9月17日(日) 研究発表第6室(722)

がいくつかの語彙で書かれているか数えたものである。以下は、数えるにあたり設けた規則である。語彙として数えなかったもの：ローマ字でかかれた固有名詞。同一語彙としたもの：複数形（不規則複数を除く）、過去形および過去分詞形（不規則動詞を除く）、三人称単数現在形。一旦数えた後で差し引いたもの：誤った綴り字の単語。

研究結果：11名の学生の4月と12月の英作文の単語数と語彙数をそれぞれ表とグラフにした。グラフを見ると、語彙数は単語数と同じようには増加していない。12月の単語数と語彙数の差は4月の単語数と語彙数の差と比較して大きくなっている。これは単語数が全体的に増加したことが影響している。すなわち複数の学生の英作文を比較した場合も、一人の学生において4月と12月の英作文を比較した場合も、単語数が増えたことは同じ比率で語彙数が増えたことを意味しない。一般的に単語数の伸びに比べて語彙数の伸びは小さい。

増加率および語彙数の単語数に対する割合をグラフにした。単語数において100%を越す増加率を示した2名の学生は、語彙数の単語数に対する割合の伸びが4月から12月にかけて少なく、グラフで見るとその割合が前後の学生に比べて低い。語彙数は順調に増加しているが、語彙力は単語数において100%以上の増加率をあげるほど伸びてはいない。

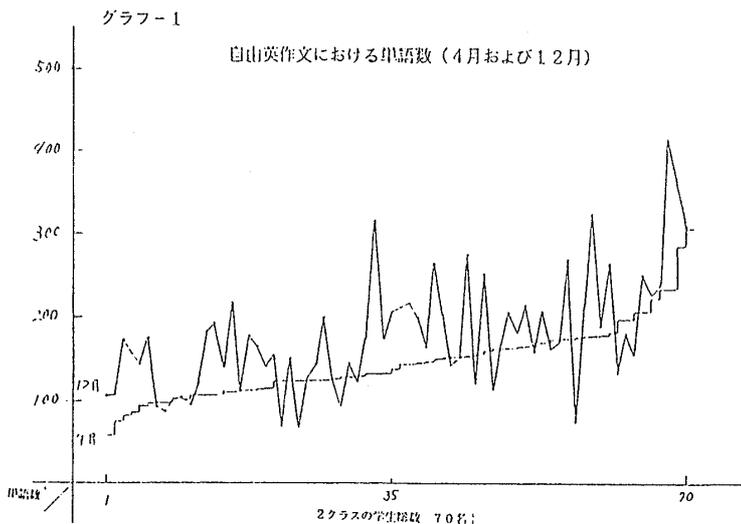
語彙数は共に4月は81、12月は113と114である2名の学生を比較する。単語数はそれぞれ4月は156と179、12月は276と325である。4月と12月と同じような語彙数を使用しているが、単語数は違い、12月においてその差はさらに開いた。単語数の多い英作文を書くためには、語彙数だけが問題ではない。

単語数と、語彙数の単語数に対する割合の関係をもっと詳しく知るために、同一もしくは1語しか変わらない単語数の英作文の語彙数を調べた。その結果を単語数のグループごとにまとめ、表にした。4月の英作文において同じ単語数を書いた学生の間で、語彙数にかなりのばらつきがあることがわかった。

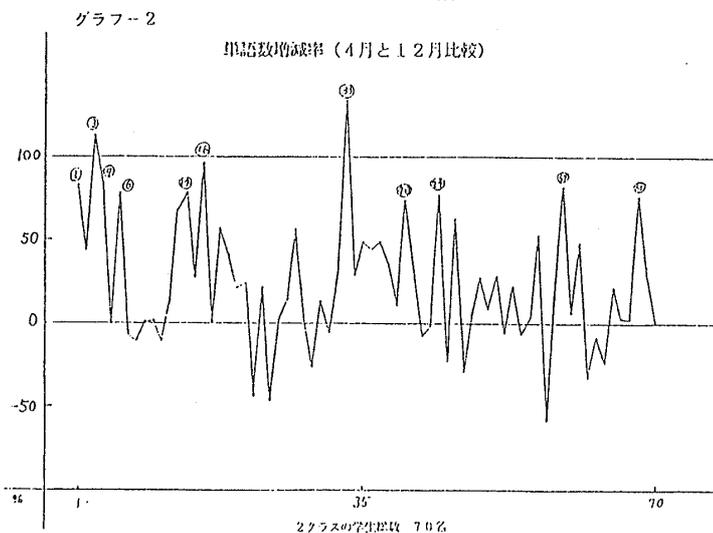
初めに選出した11名の学生の4月と12月の英作文22枚および比較のため選んだ学生の英作文10枚、合計32枚の英作文の語彙数の単語数に対する割合を単語数の区分別にグラフにした。そのグラフを見ていえることは、単語数が120語以下の英作文で単語数に対して語彙の占める割合は約50%~70%、121~250語の英作文では40%~60%、そして251語以上の英作文では35%~45%ということである。これはあくまでも抜き取り調査をしたこのグループについて言えることであり、すべてのグループまたはクラスに当てはまるとはいえないかもしれない。しかしながら、もっと広く多くのデータを集めることで一般的な基準が作れるのではないだろうか。

結論：語彙数は単語数のようには増加しないが、学生の語彙力をみる一つの基準にはなると思われる。英作文の語彙数を増やすことは、情報の豊富さ、表現の豊かさ、いまいわしの多様さを増すことになり、英作文の質を高めることにつながる。

9月17日(日) 研究発表第6室(722)



グラフ-1は、70名の学生の4月の英作文を単語数の少ないものから並べたものに、それぞれの学生の12月の英作文の単語数を記入したものである。



グラフ-2は、70名の学生の4月と12月の英作文の単語数をもとにして出した増減率である。

グラフ-3は、選出した11名の学生の4月と12月の英作文の単語数と語彙数である。

グラフ-4は、選出した11名の学生の単語数の増加率および4月と12月の英作文における語彙数の単語数に対する割合を示すものである。

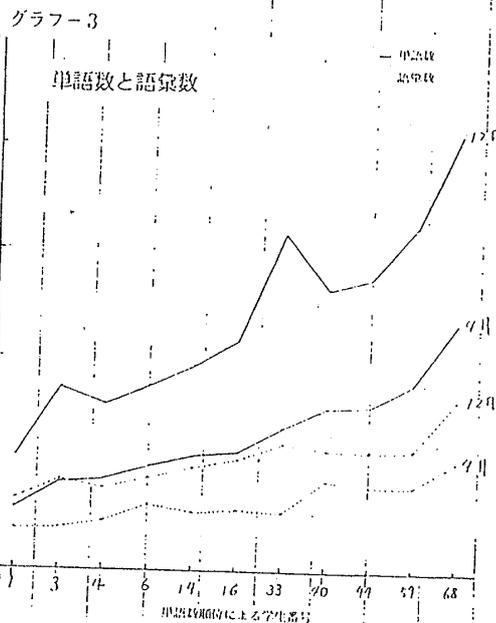


表1 4月の英作文：語彙数の単語数に対する割合

学生番号	単語数	語彙数	誤り	%
1	58	39	2	67.2
3	81	40	1	49.4
4	85	47		55.3
6	98	61	1	62.2
14	108	55	1	50.9
16	111	59	3	53.2
33	135	55		40.7
40	153	86	1	56.2
44	156	81	2	51.9
59	179	81	1	45.3
68	235	105		44.7

9月17日(日) 研究発表第6室(722)

表2 12月の英作文：語彙数の単語数に対する割合

学生番号	単語数	語彙数	誤り	%
1	106	67		63.2
3	172	82		47.7
4	157	78		49.7
6	175	88		50.3
14	192	97		50.5
16	218	105	2	48.2
33	316	120		38.0
40	266	114		42.9
44	276	113	3	40.9
59	325	114	9	35.1
68	413	162		39.2

表3は、すべて4月の英作文の分析である。

*印は、比較のため追加した10名の学生と比較する学生がいないため他の大学のクラスから選んだ学生(A、B)である。

グラフ-4

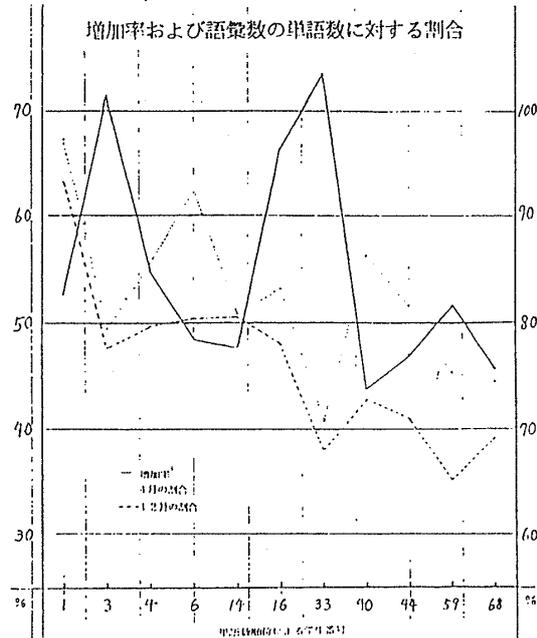
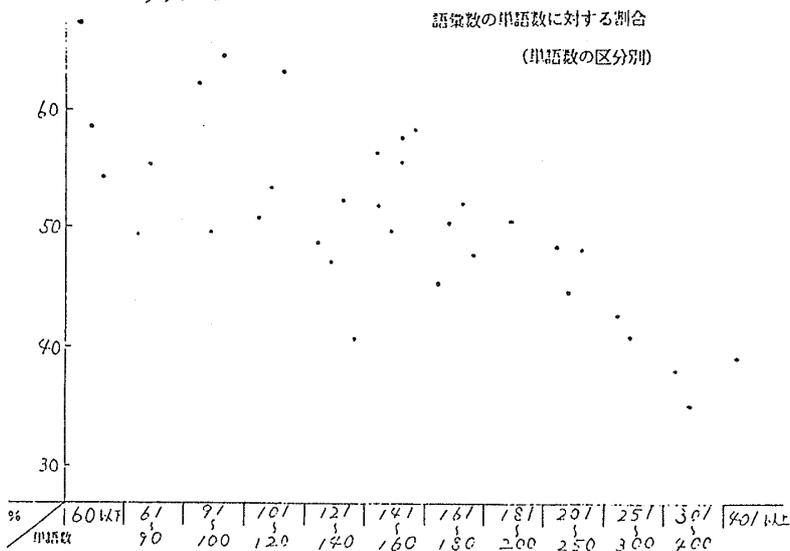


表3 近似単語数の英作文間の語彙数の単語数に対する割合の比較

学生番号	単語数	語彙数 (平均)	誤り	% (平均%)
1	58	39 (35)	2	67.2 (60.0)
*A	58	34	3	58.6
*B	59	32	2	54.2
6	98	61 (58)	1	62.2 (58.8)
*7	99	49		49.5
*8	99	64		64.6
*25	127	62 (64)	2	48.8 (49.4)
*26	127	60	1	47.2
*27	128	69	2	52.3
*41	155	86 (87)		55.5 (55.9)
*42	156	91		58.3
*43	156	90	2	57.7
44	156	81	2	51.9
*58	179	93 (87)	5	52.0 (48.7)
59	179	81	1	45.3
*67	235	113 (109)	2	48.1 (46.4)
68	235	105		44.7

グラフ-5



グラフ-5は、選出した11名の学生の4月と12月の英作文22枚および比較のため選んだ12枚、合計34枚の英作文の語彙数の単語数に対する割合を単語数の区分別に記入したものである。